

平成31年度 講義計画書

担当講師 森脇 保彦・芝明朗

科目名・対象学科	柔道 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前期	実 技
一般目標 (GIO)			
柔道の創始者嘉納師範は、柔道は「心身の力を最も有効に使用する道である」また、「日常生活の動きのほとんどが含まれている」と言われております。「怪我を防ぐ・逆に怪我につながる動き」等の体験を通して、怪我の原因と予防方法等の関連性について学び、怪我の症候、診断と治療における的確なヒントを身につける。併せて認定審査合格のための技術を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0 s) ・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0 s)			学習のキーワード
<p>武道(柔道)本来の身体の使い方、動作について理解し実践できる。</p> <p>1) 姿勢・進退体捌・崩し・つくり・掛け・組み方・受け身を正確に実践できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柔道衣の着方・帯の結び方・たたみ方・姿勢(自然本体・自護本体)・礼法(立座) ・受け身の安全な取り方、倒れる方向によって違う身体の動きを理解する。 ・取と受けを理解し、組み方・崩し方・受け方及び進退体捌の方法を理解する ・安全な動作、危険な動作を理解し「崩し・つくり」の約束練習が出来る。 <p>2) かかり練習及び約束練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手技(体落) 組み方(釣り手・引手)・技の掛け方・⇒取・受の正しい姿勢 ・腰技(大腰) 同上 ・足技(大外刈・出足払・膝車・大内刈) 同上 ・約束練習で互いに取受け動作が正確に・安全に出来る <p>3) 後期に実施する投の形を紹介し注意事項等説明する(諸動作・礼法・体捌等)</p>			<p>基本動作</p> <p>動作及び使い方</p> <p>正しい姿勢とは</p> <p>後方及び前方</p> <p>崩し・つくり・掛け</p> <p>運動の法則、抗重力機構</p> <p>安定(立位)姿勢</p> <p>身体の使い方・動き</p> <p>同上</p> <p>同上</p>
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	「柔道実技 虎の巻」 発行所 株式会社メディアパル 著者 森脇 保彦		
受講上の注意	全出席することを原則とし、柔道は難しい、経験が無いから無理などを理由に諦めずに挑戦すること。柔道の体験を通して身につける身体の動き・使い方は整復の治療方法に関連することが多い。形だけ真似をするのではなく積極的な取り組みを期待します。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：飯村 彰

科目名・対象学科	からだの仕組みⅡ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	座 学
一般目標(GIO)			
循環器系の正常構造と機能を理解し、おもな循環器疾患の原因、病態生理の理解と診断への関連付けができる基礎を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
<p>循環器の構造と機能を理解する。</p> <p>1) 体循環と肺循環、血管の基本構造を説明できる。</p> <p>2) 心臓の位置、外観を説明できる</p> <p>3) 心臓の房・室・弁の構造を説明できる。</p> <p>4) 心臓の刺激伝導系を説明できる。</p> <p>5) 大血管、冠状動静脈、心膜を説明できる。</p> <p>6) 動脈系、静脈系を説明できる。</p> <p>7) 胎児循環とリンパ系を説明できる。</p>			<p>肺循環、体循環、血管壁</p> <p>心尖、縦隔</p> <p>左右心房、心室、房室弁</p> <p>刺激伝導系、特殊線維</p> <p>冠状動脈、心膜、心膜腔</p> <p>大動脈、上下大静脈、門脈</p> <p>バイパス路、リンパ管・節</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」 ・ イラスト解剖学（中外医学社） ・ 解剖学講義（南山堂）		
受講上の注意	全出席することを原則とし、手書きで図・文章を描く事。反復して学習する事。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 竹居 光太郎

科目名・対象学科	からだの働き II		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前期	座 学
一般目標 (GIO)			
生理学の内、消化器系（消化と吸収）、泌尿器系（排泄）、内分泌系（ホルモン作用）、生殖器系（男性・女性生殖器と妊娠・出産）の基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
消化器、泌尿器、生殖器、内分泌の各器官系の機能について理解する。 1) 消化器系の機能を説明できる。 ・胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、膵臓の機能が理解できる。 2) 泌尿器系の機能を説明できる。 ・糸球体濾過、再吸収と分泌、体液調節機構が理解できる。 3) 生殖器系の機能を説明できる。 ・男 ・妊娠、出産の仕組みを理解できる。 4) 内分泌系の機能を説明できる。 ・各 ・ホ			胃、胃液、十二指腸、膵液 小腸、小腸液、大腸 肝臓、膵臓、胆汁 糸球体濾過、再吸収、分泌 最大輸送量、GFR レニンアンジオテンシン系 男性生殖器、女性生殖器 精子形成、性周期 妊娠、出産 液性情報伝達系 視床下部、下垂体、松果体 甲状腺、副腎、膵臓、心臓 性腺、胸腺、腎臓、消化器
成績評価	定期試験による評価とする。		
教科書・副読本	指定教科書「生理学」（南江堂）		
受講上の注意	全出席することを原則とし、授業内容のノートをしっかり取ること。また、教科書の該当する項目を自主学習すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：芝 明朗

科目名・対象学科	基礎柔整学Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1年	前期	座学
一般目標(GIO)			
身体の正常構造と機能を理解し、運動器を中心とした疾患の病態生理、原因、症状、診断などの基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
<p>運動器を中心とした解剖学、生理学、柔道整復理論を総合的に理解を深めることを目標とする。</p> <p>1) 関節の損傷(捻挫、脱臼)の解説 関節の構造と機能を学ぶ 関節損傷の概説・分類</p> <p>2) 筋の損傷の解説 筋の構造と機能を学ぶ 筋の損傷・分類</p> <p>3) 腱の損傷 腱の構造と機能を学ぶ 腱の損傷の概説・分類</p> <p>4) 末梢神経の損傷の解説 神経の構造と機能を学ぶ 神経損傷の概説・分類</p> <p>4) 脱臼の整復法の解説 徒手整復施行時・施行後の確認と配慮</p> <p>5) 軟部組織損傷の初期処置の解説</p>			<p>関節の構造・種類、外力</p> <p>急性・亜急性</p> <p>筋の種類・構造</p> <p>筋の構造・機能・起始停止</p> <p>腱の性状</p> <p>一般外傷症状</p> <p>脱臼の固有症状</p>
成績評価	授業態度、出席状況、小テストや学期末試験などの総合評価とする。		
教科書・副読本	解剖学、生理学、柔道整復学・理論編		
受講上の注意	講義に無関係な行為は厳禁		

平成31年度 講義計画書

担当講師：利根 竜兵

科目名・対象学科	解剖学 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
骨・関節・筋・靭帯の構造と機能を学び、臨床に役立つ知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>運動器の構造と機能について理解する。</p> <p>1) 骨・軟骨・関節・靭帯の構造と機能を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造物の名称とその役割りが理解できる。 <p>2) 四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨の各部の名称が理解できる。 <p>3) 頭蓋および椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。</p> <p>4) 四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋の付着部（起始・停止）が理解でき、その付着筋が説明できる。 <p>5) 骨盤の構成と性差を説明できる。</p> <p>6) 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。</p> <p>7) 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。</p>			<p>骨組織、プロテオグリカン</p> <p>骨代謝、筋の起始停止</p> <p>関節の種類（関節の形状）</p> <p>単関節、複関節</p> <p>抗重力筋</p> <p>運動神経の走行</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、授業中の確認試験（小テスト）、提出物などの総合評価とする。		
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」		
受講上の注意	教員と、また学生間でマナーを守って受講すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小橋 俊秀

科目名・対象学科	基礎実技 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	実 技
一般目標 (GIO)			
基本包帯の巻き方、包帯固定の目的・範囲及び冠名包帯法の習得（白衣着用必要・受験資格は80%以上の出席を要す）			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
<ol style="list-style-type: none"> 1. 巻軸帯の巻き方と注意事項 2. 基本包帯法（環行帯・螺旋帯・蛇行帯・折転帯・亀行帯・麦穂帯）の巻き方の習得 3. 冠名包帯法の巻き方の習得 4. 体の各部位の固定が包帯を使用して完全にできるように 5. 巻締の強さ・均等な圧・美しさの3点を備えた包帯が巻けるように 6. 出来るだけ早く包帯を巻けるように練習する 			環軸帯 基本包帯法 デゾー ウェルボー ジュール
成績評価	個人ごとに実技試験を実施する。（60点以上で合格、授業欠席で減点方式をとる）		
教科書・副読本	包帯固定学		
受講上の注意	欠席をしないように		

平成31年度 講義計画書

担当講師：鳥海 剛史

科目名・対象学科	基礎実技Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	実 技
一般目標 (GIO)			
<p>上肢、下肢の筋の起始停止・働きを理解しテーピングの基礎を学ぶ。 関節の動き、靭帯の位置等を認識し外傷や再発防止に対して適切な診断を下し、ふさわしいテーピング処置を施せるように学ぶ。</p>			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>上肢の筋を理解する。</p> <p>上肢の関節の動きを理解する。</p> <p>上肢に関わる代表的な外傷。(特にテーピングに関わる外傷を学ぶ。)</p> <p>実際に固定してみて効果を確認する。(上肢)</p> <p>頸部・体幹の筋を理解する。</p> <p>頸部・体幹の大きな動きを理解する。</p> <p>頸部・体幹に関わる代表的な外傷。(特にテーピングに関わる外傷を学ぶ。)</p> <p>実際に固定してみて効果を確認する。(頸部・体幹)</p> <p>下肢の筋を理解する。</p> <p>下肢の関節の動きを理解する。</p> <p>下肢に関わる代表的な外傷。(特にテーピングに関わる外傷を学ぶ。)</p> <p>実際に固定してみて効果を確認する。(下肢)</p> <p>関節可動域を知り学ぶ。可動域の計測の基準を学ぶ。</p> <p>ケガの再発防止にはどうしたらよいか考え、学ぶ。</p>			<p>キネシオロジーテープ</p> <p>ホワイトテープ</p> <p>アンダーラップ</p> <p>起始・停止とは</p> <p>筋の名称</p> <p>筋の触診</p> <p>支配神経</p> <p>テーピングの意義</p> <p>靭帯の名称</p> <p>靭帯の触診</p> <p>靭帯の働き</p> <p>可動域測定の意義</p>
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・小テスト及び定期試験での総合評価とする。		
教科書・副読本	包帯固定学(改定第2版) 南江堂 その他、適宜参考プリント等配布		
受講上の注意	<p>フックヒール類は外す事。白衣を着用する事。上着を脱いで授業を行う事もあるのでTシャツ等を下に着ておくこと。授業進行によりスパッツ・半ズボン等を指示する。 医療従事者、特に柔道整復師になる者として清潔に気を配る事。(爪や、白衣の汚れなど。) 指示した服装や道具等を忘れた者は欠度扱いとする</p>		

平成31年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平

科目名・対象学科	基礎柔整学 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
柔道整復師の歴史や倫理綱領、業務範囲と共に骨折の基礎知識や痛みについての基礎知識を身につける。また骨折の合併症について誘因、原因、発症時期などを学ぶ。ま			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師の沿革を学び心得や業務範囲を説明できる。 2. 損傷時において人体に加わる外力や急性・慢性の概念を説明できる。 3. 疼痛の基礎知識や評価法などを学び、初学年におけるレベルで痛みについて説明できるようになる。 4. 骨の構造を理解し血管構造や層板構造を説明できる。 5. 骨折の定義を学び、完全骨折、不全骨折の種類を説明できる。 6. 骨折の固有症状と一般外傷症状の違いを理解し、また固有症状を認めやすい骨折の条件を説明できるようになる。 7. 小児と高齢者の骨構造の違いを理解し骨折の仕方や部位の違いについて説明できるようになる。 8. 合併症の発生時期や原因を理解し、それぞれの注意点を説明することができる。 9. 固定の原則を理解し整復法の適応を説明する事ができる。 			柔道整復術、業務範囲 急性、亜急性、慢性 直達、介達外力 炎症、自由神経終末、 Aδ線維、C線維、痛みの評価 皮質骨、海綿骨、骨端軟骨 完全骨折、不全骨折、疲労骨折 軋轢音、異常可動性、転位と変形 解剖学的治癒、機能的治癒 治癒速度、高齢者骨折 併発症、続発症、後遺症 牽引直圧法 屈曲整復法
成績評価	①中間試験・・・内容は口頭試問（試問内容は予告します） ②定期試験・・・選択問題や○×問題ではなく完全な記述試験です ※中間試験と定期試験を合算し成績を算出します		
教科書・副読本	柔道整復理論第6版 標準整形外科 ※授業では必ずプリントを配布（A4orA3）するのでクリアファイルを準備してまとめられるようにしておきましょう。		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。（時間は有限です） ②配布した授業プリントはよく考えて使用する事。（テスト前の再配布は致しません） ③講義内容に関係のない行為は決してしないこと（スマホ操作や度を越えた居眠りなど）		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小林 康孝

科目名・対象学科	健康科学		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
生命維持の必須機能に恒常性維持があり、生理学の中心課題になる。加えて、生体の持つ特徴に生体適応が挙げられる。それは、適切な生体刺激による機能の向上として捉えられる。この「健康科学」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりに必要なスポーツ（医）科学の基礎と応用について学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
健康科学における次の概要を整理・理解する。			
1) 健康づくり運動 の概要を説明できる。			健康日本21、ルールの3原則
2) 運動性貧血 の概要を説明できる。			献血、高地トレーニング
3) スポーツ心臓 の概要を説明できる。			血圧変動、心拍出量
4) 呼吸系への運動効果 の概要を説明できる。			換気量、肺でのガス交換
5) 筋グリコーゲン増量法 の概要を説明できる。			消化・吸収、BMI
6) 運動強度の把握法 の概要を説明できる。			酸素摂取量、METS
7) 運動量の把握法 の概要を説明できる。			エネルギー平衡、歩・走運動
8) 運動時の腎機能 の概要を説明できる。			体液浸透圧、体液量
9) 暑熱下の運動 の概要を説明できる。			体熱平衡、暑熱順化
10) 運動時の内分泌調節 の概要を説明できる。			ストレス応答、副腎
11) 運動性無月経 の概要を説明できる。			性周期、卵胞ホルモン
12) 骨への運動効果 の概要を説明できる。			骨形成、骨吸収
13) 筋への運動効果 の概要を説明できる。			遅筋、速筋
14) 運動調節 の概要を説明できる。			随意運動、不随意運動
15) 運動の習熟 の概要を説明できる。			前庭動眼反射、筋紡錘
成績評価	筆記試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	教科書は、特に指定しない。「生理学」「解剖学」の教科書が参考書になる。		
受講上の注意	講義内容を板書するので、受講者は聴いて・見て・書いての作業を繰り返して科学的法則性を整理・理解する。したがって、[出席]はノート提示を必要条件とする。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 赤堀 真紀

科目名・対象学科	基礎柔整学Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
柔道整復術について理解し、将来柔道整復師として仕事をするうえで大切なことをイメージできるようになる。 また、授業中のワークを通して他人の意見を聴くこと、自分の考えを述べるができるようになる。			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<ol style="list-style-type: none"> 1. 柔道整復師の仕事についてイメージできるようになる。 2. 医療人、柔道整復師としてのあるべき姿がイメージできるようになる。 3. 診察の心構え、手順が理解できる。 4. 後療法について理解できる。 5. 患者の指導管理について理解できる。 6. 外傷の保存療法について理解できる。 			柔道整復術、施術録 将来像 身だしなみ、言葉遣い 物理療法、運動療法、手技療法 就労、就学環境 外傷予防
成績評価	定期試験の他、授業態度、出席状況、提出物等を加味して総合的に評価する。		
教科書・副読本	柔道整復理論第6版		
受講上の注意	考えること、イメージすることに重きをおいて能動的に授業に参加すること。 授業に関係のない行為は慎むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：平野 剛

科目名・対象学科	からだの働き I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
血液の生理学、循環の生理学、呼吸の生理学について理解し、主な神経・筋疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療につなげるための基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>1. 生理学の基礎を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞の機能的構造を説明できる 受動輸送と能動輸送の違いを説明できる エンドサイトーシスとエクソサイトーシスを説明できる <p>2. 血液の生理学を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 血液の組成・役割を説明できる 免疫機能を説明できる 血液凝固の仕組みを説明できる <p>3. 循環の生理学を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 心臓の機能を説明できる 血管系の構造とはたらきを説明できる 循環の調節を説明できる <p>4. 呼吸の生理学を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> 呼吸器の機能的構造を説明できる ガス交換について説明できる 呼吸を調節するしくみについて説明できる 			<p>細胞小器官</p> <p>一次性能動輸送</p> <p>エンドサイトーシス</p> <p>ホメオスタシス</p> <p>免疫系細胞</p> <p>血液凝固因子</p> <p>心筋</p> <p>動脈、静脈</p> <p>神経性調節、体液性調節</p> <p>気道、肺</p> <p>ガス分圧</p> <p>呼吸の周期</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	生理学改訂第3版（社団法人 全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する。		
受講上の注意	生理学改訂第3版を事前に読み、疑問点を抽出した上で講義へ臨むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小口岳史

科目名・対象学科	解剖学Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1年	後期	座学
一般目標(GIO)			
筋肉系について、正常な構造を学び、臨床的な応用ができるように理解する			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
筋肉系について理解する 1) 筋肉の一般的な形状、機能について説明できる 2) 頭部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 3) 胸部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 4) 腹部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 5) 背部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 6) 上肢の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 7) 下肢の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる			筋頭・筋尾・起始・停止・ 支配神経・分類・補助装置 咀嚼筋・顔面筋 浅胸筋・深胸筋・横隔膜・ 呼吸運動 前腹筋・側腹筋・後腹筋 浅背筋・深背筋第1層・ 固有背筋 上肢帯筋・上腕の筋・ 前腕の筋・手の筋 下肢帯筋・大腿の筋・ 下腿の筋・足の筋
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」		
受講上の注意	全出席することを原則とし、授業内容よく徴候してノートをしっかり取ること。また、疑問点を放置せず、調べたり質問したりして必ず自己解決すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：赤堀 真紀

科目名・対象学科	臨床柔整学 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	講 義
一般目標 (GIO)			
上肢のメジャーな外傷について理解し、説明することができる。			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・上肢のメジャーな骨折について理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> — 発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。 ・上肢のメジャーな脱臼について理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> — 発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。 ・上肢のメジャーな軟部組織損傷について理解できる。 <ul style="list-style-type: none"> — 発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。 			鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折、 コーレス骨折 ボクサー骨折 肩関節脱臼、肘関節脱臼、肘内 障 PIP関節脱臼 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損 傷
成績評価	定期試験他、小テスト、授業態度（出席状況）などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編改訂第6版（南江堂）、解剖学改訂第2版（南江堂） 柔道整復学・実技編改訂第2版（南江堂）		
受講上の注意	柔整理論を学ぼうえで解剖学の教科書も適宜確認しながら、受講することが望ましい。 授業に関係のない行為は慎むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平

科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	講 義
一般目標 (GIO)			
頭部体幹の外傷や下肢の骨折・脱臼の各論を学び、柔道整復理論総論と結び付けることで各症状や転位による外観の変形についてより深く習得することを目標とする。			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
<ol style="list-style-type: none"> 1) 顎関節の解剖を理解し脱臼方向別の症状を説明できる。 2) 胸郭の解剖を理解し肋骨骨折の症状や好発部位を説明できる。 3) 骨盤の解剖を理解し単独骨折や骨盤輪骨折の症状や転位を部位別に説明できる。 4) 股関節の解剖を理解し大腿骨近位端部骨折や脱臼の症状を説明できる。 5) 大腿骨の解剖を理解し大腿骨骨幹部骨折の症状や転位を説明できる。 6) 膝蓋骨の機能、解剖を理解し脱臼や骨折の症状を説明できる。 7) 下腿骨の解剖を理解し下腿骨折の症状や転位を説明できる。 8) 足根骨の解剖を理解し踵骨、距骨、舟状骨骨折の症状を説明できる。 9) 中足骨の解剖を理解し骨折時の症状を説明できる。 			顎関節 関節円板 前方脱臼 多発骨折 奇異呼吸 胸壁動揺 デュベルニー骨折 マルゲー ニュ骨折 ガーデン分類 パウエル分類 脂肪塞栓症 出血性ショック 中央部骨折 外側脱臼 FTA Qアングル 反張下腿 偽関節 腐骨 開放 性骨折 水平骨折 ナウマン徴候 体部 骨折 第1ケーラー病 第2ケーラー病 行軍骨折 疲労骨折
成績評価	定期試験・・・選択問題、筆記、○×など総合的な出題形式とします。 出席・・・チャイムが鳴った時点で着席していない学生は遅刻または欠席扱いとします。 中間試験・・・総評価の20%を占める試験になりますので欠席はしないこと。		
教科書・副読本	柔整理論第6版 ※必要な教科書は随時周知しますのでそれに従ってください。		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②配布したプリントはよく考えて使用すること。(テスト前の再配布は致しません) ③講義に関係のない行為は決してしない。(スマホ操作や度を越えた居眠りなどは退室して頂きま		

平成31年度 講義計画書

担当講師：鳥海 剛史

科目名・対象学科	基礎柔整実技 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	実 技
一般目標 (GIO)			
<p>上肢、下肢、体幹の骨・筋の起始停止や動きを理解し触診の基礎を学ぶ。 関節の形や動き、靭帯の位置等を確認し、触診出来る様に学ぶ。 各関節のROMを知り計測出来る様にする。 上記を基に様々な運動器疾患・外傷を見極められる様にする。</p>			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>上肢の骨・筋・靭帯を理解する。</p> <p>上肢の関節の動きを理解する。</p> <p>上肢の関節可動域を理解する。</p> <p>実際に計測してみて可動域を確かめる。(上肢)</p> <p>頸部・体幹の骨・筋・靭帯を理解する。</p> <p>頸部・体幹の動きを理解する。</p> <p>頸部・体幹の可動域を理解する。</p> <p>実際に計測してみて可動域を確かめる。(頸部・体幹)</p> <p>下肢の骨・筋・靭帯を理解する。</p> <p>下肢の関節の動きを理解する。</p> <p>下肢の関節可動域を理解する。</p> <p>実際に計測してみて可動域を確かめる。(下肢)</p> <p>他者との違いを確かめる。</p> <p>ケガの再発防止にはどうしたらよいか考え、学ぶ。</p>			<p>起始・停止とは</p> <p>骨の名称</p> <p>骨の触診</p> <p>筋の名称</p> <p>筋の触診</p> <p>支配神経</p> <p>靭帯の名称</p> <p>靭帯の触診</p> <p>靭帯の働き</p> <p>可動域測定の意義</p> <p>可動域測定の方法</p> <p>MMT</p>
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・小テスト及び定期試験での総合評価とする。		
教科書・副読本	機能解剖学的 触診技術 上肢 下肢 体幹 MEDICAL VIEW社 その他、適宜参考プリント等配布		
受講上の注意	<p>アクセサリ類は外す事。 白衣を着用する事。 上着を脱いで授業を行う事もあるのでTシャツ等を下に着ておくこと。授業進行によりスパッツ・半ズボン等を指示する。 医療従事者、特に柔道整復師になる者として清潔に気を配る事。(爪や、白衣の汚れなど。) 指示した服装や用具等を忘れた者は欠席扱いとする。</p>		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 小橋 俊秀

科目名・対象学科	基礎実技IV		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	実技
一般目標(GIO)			
冠名包帯を臨床に対応して迅速にかつ適切に巻けるようになる。部位別包帯の臨床的対応、各種固定材料を目的に沿って使用できるようになる。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
冠名包帯法・部位別包帯法・各種固定法を学ぶ。 1) 冠名包帯法（ジュール包帯）の習得 2) 冠名包帯法（ウェルボー包帯）の習得 3) 冠名包帯法（デゾー包帯）の習得 4) 部位別包帯法の習得 5) 各種固定材料の作成 6) 各部位の固定法の習得 ◎臨床現場に対応できる包帯法および固定法を習得する。			巻軸帯、三角巾 目的に沿った包帯の選択 適切な固定材料の選択 部位別包帯法 冠名包帯法
成績評価	定期実技試験、授業態度、出席状況、授業中の小テスト、提出物などの総合評価とする		
教科書・副読本	包帯固定学（改定第2版） 南江堂 その他、適宜参考プリント等配布		
受講上の注意	アクセサリ類は外す事。 白衣を着用する事。 上着を脱いで授業を行う事もあるのでTシャツ等を下に着ておくこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 青木 圭輔

科目名・対象学科	基礎柔整学IV		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	座学
一般目標 (GIO)			
骨折の総論を理解し習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等		学習のキーワード	
骨の機能を理解し説明ができる。		緻密質、海綿質、骨膜	
骨損傷の概説について理解し説明できる。		骨細胞、破骨細胞、骨芽細胞	
骨折の分類について理解し説明できる。		外傷性骨折、完全骨折、横骨折 開放性骨折、屈曲骨折	
骨折の症状について理解し説明できる。		一般外傷症状 固有症状	
骨折の合併症について理解し説明できる。		併発症、続発症、後遺症	
小児骨折・高齢者骨折について理解し説明できる。		ソルター・ハリス分類	
骨折の治癒経過について理解し説明できる。		グルトの骨癒合日数 炎症期、仮骨硬化期、仮骨形成期	
骨折の整復法、固定法について理解し説明できる。		牽引直圧法、屈曲整復法	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、小テストなどを総合的に判断する。		
教科書・副読本	柔道整復学 理論編、実技編		
受講上の注意	予習、復習をして授業に積極的に参加すること。 授業中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：利根 竜兵

科目名・対象学科	基礎柔整学V		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	座 学
一般目標 (GIO)			
柔道整復学・理論編 総論 脱臼・軟部組織損傷を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>1) 関節の損傷（捻挫、脱臼）の解説</p> <p>関節の構造と機能を学ぶ</p> <p>関節損傷の概説・分類</p> <p>2) 筋の損傷の解説</p> <p>筋の構造と機能を学ぶ</p> <p>筋の損傷・分類</p> <p>3) 腱の損傷</p> <p>腱の構造と機能を学ぶ</p> <p>腱の損傷の概説・分類</p> <p>4) 末梢神経の損傷の解説</p> <p>神経の構造と機能を学ぶ</p> <p>神経損傷の概説・分類</p> <p>4) 脱臼の整復法の解説</p> <p>徒手整復施行時・施行後の確認と配慮</p> <p>5) 軟部組織損傷の初期処置の解説</p>			<p>関節の構造・種類、外力</p> <p>急性・亜急性</p> <p>筋の種類・構造</p> <p>筋の構造・機能・起始停止</p> <p>腱の性状</p> <p>一般外傷症状</p> <p>脱臼の固有症状</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、授業中の確認試験（小テスト）、提出物などの総合評価とする。		
教科書・副読本	指定教科書「柔道整復学・理論編」		
受講上の注意	マナーを守って謙虚に受講すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：杉山明枝

科目名・対象学科	外国語		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1年	後期	座学
一般目標 (GIO)			
医療人・柔道整復師として必須の医学英語、概念、表現を習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>柔道整復師として外国人患者とのコミュニケーション能力を養うべく、基礎的な医学英語表現を中心に習得する。</p> <p>1) 骨格・骨格筋に関する表現を英語で表現できる</p> <p>2) 肩と膝の関節構造に関する表現を英語で表現できる</p> <p>3) 手の骨と筋、足の骨と筋に関する表現を英語で表現できる</p> <p>4) 受付・問診・診察・会計等、柔道整復師の業務に必要な一連の流れを英語で表現できる</p> <p>5) 一般的な医学英語表現、医療英単語を理解できる。</p>			<p>骨格</p> <p>骨格筋</p> <p>関節</p> <p>業務用英語表現</p> <p>医療英単語</p>
成績評価	授業毎に実施する単語テスト (40%)、期末考査 (60%) などで総合的に評価する。		
教科書	『学生のためのカレントメディカルイングリッシュ 第4版』 医学書院 飯田恭子 『柔道整復師のための外国人対応ハンドブック【英語版】』 九段日本文化研究所 大城慶太		
受講上の注意	全授業出席を原則とし、予習・復習をしっかりとる。教科書など忘れ物をしない。私語をしない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 竹居光太郎

科目名・対象学科	生理学II		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	座学
一般目標 (GIO)			
生理学の内、運動制御系（反射と運動調節）、生体防御系（免疫系）、感覚器系、身体調節系の基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
運動制御系、生体防御系、感覚器系、身体調節系の機能について理解する。 1) 運動制御系の機能を説明できる。 ・ 脊髄反射の機能が理解できる。 ・ 脳幹を中枢とする運動機能を理解できる。 ・ 小脳と大脳基底核の運動機能が理解できる。 ・ 大脳皮質の運動機能が理解できる。 2) 生体防御系（免疫系）の機能を説明できる。 ・ リンパ系の機能を理解できる。 ・ 自然免疫系と獲得免疫系を理解できる。 3) 感覚器系の機能を説明できる。 ・ 視覚、聴覚、味覚、嗅覚の機能を理解できる。 ・ 体性感覚の機能を理解できる。		学習のキーワード 脊髄反射、伸張反射 屈曲反射、脳幹体性反射 小脳、大脳基底核 新皮質運動野、錐体路 視覚、聴覚、嗅覚、味覚 体性感覚、痛覚、触圧覚 深部感覚、内臓感覚 リンパ系、免疫担当細胞 自然免疫、獲得性免疫 抗体、アレルギー	
成績評価	定期試験による評価とする。		
教科書・副読本	指定教科書「生理学」（南江堂）		
受講上の注意	全出席することを原則とし、授業内容のノートをしっかりとること。また、教科書の該当する項目を自主学習すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：飯村 彰

科目名・対象学科	からだの仕組み III		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	座学
一般目標(GIO)			
神経系と感覚器系の正常構造と機能を理解し、主な神経系疾患、感覚器疾患のの原因、病態生理の理解と診断への関連付けができる基礎を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
1) 神経組織と脳室系について説明できる。 2) 脳の各部位の形態、皮質神経細胞と神経核のつながりを説明できる。 3) 脊髄について説明できる。 4) 脳神経について説明できる。 5) 脊髄神経、自律神経について説明できる。 6) 皮膚、視覚器について説明できる 7) 聴覚・平衡器について説明できる。 8) 味覚器、嗅覚器について説明できる。」			神経細胞、脳室 大脳皮質、大脳基底核 脊髄神経、脊髄神経節 脳12神経 体性神経、自律神経 皮膚知覚、眼球構造 聴覚、平衡覚 味蕾、嗅球
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」 ・ イラスト解剖学（中外医学社） ・ 解剖学講義（南山堂）		
受講上の注意	全出席することを原則とし、手書きで文章・図を描く事。反復して学習する事。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：平野 剛

科目名・対象学科	生理学 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	1 年	後 期	座学
一般目標 (GIO)			
神経の基本的機能、神経系の機能、筋肉の機能、感覚の生理学について理解し、主な神経・筋疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療につなげるための基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<p>1. 神経細胞の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞の活動を説明できる ・興奮の伝導のメカニズムを説明できる ・興奮の伝達のメカニズムを説明できる <p>2. 神経系の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反射と反射弓について説明できる ・姿勢と歩行の調節について説明できる ・脳の高次機能について説明できる <p>3. 筋肉の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋収縮のしくみを説明できる ・筋電図について波形の説明ができる ・心筋のしくみを説明できる <p>4. 感覚の生理学を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視覚について説明できる ・聴覚について説明できる ・前庭感覚について説明できる 			<p>全か無かの法則</p> <p>跳躍伝導</p> <p>シナプス</p> <p>腱反射、脊髄反射</p> <p>前庭迷路反射</p> <p>睡眠</p> <p>滑り説</p> <p>H波、M波</p> <p>歩調取り細胞</p> <p>暗順応、明順応</p> <p>蝸牛、コルチ器</p> <p>半規管、耳石器</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	生理学改訂第3版（社団法人 全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する。		
受講上の注意	生理学改訂第3版を事前に読み、疑問点を抽出した上で講義へ臨むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小橋 俊秀

科目名・対象学科	社会保障制度		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2 年	前 期	座 学
一般目標(GIO)			
社会保障制度について、その歴史的成り立ちを学び、各種社会保障がどう我々と関わっているかを理解する			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障総論 ・ 年金制度 ・ 就労支援と労働保険 ・ 生活保護 ・ 医療 ・ 介護 			今後の社旗保障 公的年金の意義 失業と非正規雇用 公的扶助 療養費 介護保険の内容
成績評価	2 / 3 以上の出席に対して、年度末に筆記試験を実施（60点以上で合格・欠席点を減点）		
教科書・副読本	包帯固定学		
受講上の注意	欠席をしないように		

平成31年度 講義計画書

担当講師：田中 ゆり子

科目名・対象学科	病理学概論		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
疾病の成立ちや成因を理解し、全身の臓器や組織に発生する病態を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
① 病理学とは、病因とは何かを説明できる。 ② 病因における内因と外因の違いについて説明できる。 ③ 退行性病変の定義、分類、特徴について説明できる。 ④ 代謝異常について原因物質別に疾患を説明できる。 ⑤ 循環系の構造と機能、血液の循環障害の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑥ リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑦ 進行性病変、病的増殖の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑧ 炎症の定義、原因、特徴について説明できる。 ⑨ 炎症の分類、各特徴について説明できる。 ⑩ 免疫の仕組みと異常の機序について説明できる。 ⑪ 自己免疫疾患、アレルギーの定義、分類、機序、特徴について説明できる。 ⑫ 腫瘍の定義、特徴、分類、正常細胞と腫瘍細胞との違いを説明できる。 ⑬ 良性腫瘍と悪性腫瘍との違いを説明できる。 ⑭ 先天性異常で遺伝子異常疾患について説明できる。 ⑮ 先天異常で奇形の原因、種類について説明できる。			病理学の手法、分類、病因 内因、外因、放射線障害 萎縮、変性、壊死、アポトーシス 蛋白質、糖質、脂質代謝障害 充血、うっ血、虚血、出血 浮腫、脱水症、高血圧症 肥大、再生、化生、創傷治癒 炎症細胞、伝達物質 滲出性炎、増殖性炎、特異性炎 免疫応答、免疫不全 自己免疫疾患、アレルギー 腫瘍形態、発育機序 転移ルート、TNM分類 単因子性遺伝、多因子性遺伝 染色体異常 催奇形因子、外表奇形、内臓奇形
成績評価	定期試験・出席状況などの総合評価		
教科書・副読本	指定教科書 (病理学概論 改定第3版 医歯薬出版)、配布プリント		
受講上の注意	配布プリント、教科書には事前に目を通してから講義に臨むこと。講義中は私語厳禁。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小野 博道

科目名・対象学科	画像評価実技 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2 年	前期	実 技
一般目標 (GIO)			
超音波画像装置（エコー画像）を正しく使用し、画像描写方法、画像読影を習得し、臨床で評価する際の方法を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・ 超音波画像装置の使用方法 取り扱い方法・プローブの扱いについて ・ 超音波の仕組み B-mode カラー Doppler について ・ 長軸、短軸の見方 長軸像、短軸像の見方について ・ 各部位の観察 ・ 研究内容と考察 			超音波画像装置 プローブ B-mode カラー Doppler アーチファクト ランドマーク
成績評価	課題提出と研究発表、授業態度（出席状況）など総合的に評価する。		
教科書・副読本	運動器の超音波（南山堂）		
受講上の注意	白衣着衣必須		

平成31年度 講義計画書

担当講師：浜之上 誠

科目名・対象学科	生理学Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
<p>生体機能を発揮するための生体構成因子と細胞機能について理解する。続いて、生体機能の恒常性を維持する神経系の種類とその制御機構を理解することで、主な神経・筋疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療につなげるための基礎知識を学ぶ。</p>			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>細胞の構成因子と機能を説明できる。</p> <p>細胞の代謝を説明できる。</p> <p>興奮性細胞の役割と興奮機序を説明できる。</p> <p>細胞間の興奮伝達機構を説明できる。</p> <p>筋細胞の興奮と収縮機構を説明できる。</p> <p>神経系の構造、代謝とその役割を説明できる。</p> <p>自律神経系の構成と内臓調節機能を説明できる。</p> <p>一般感覚の種類、特徴とその伝導路を説明できる。</p> <p>嗅覚と味覚の伝導路を説明できる。</p> <p>視覚の特徴と伝導路を説明できる。</p> <p>聴覚と平衡覚の特徴と伝導路を説明できる。</p> <p>運動の種類と伝導路を説明できる。</p> <p>高次神経機能の種類と中枢を説明できる。</p>			<p>有機化合物、細胞小器官</p> <p>ATP、細胞死</p> <p>ホメオスタシス、膜電位</p> <p>興奮伝導、シナプス</p> <p>興奮収縮連関</p> <p>血液脳関門</p> <p>不随意神経系、反射</p> <p>体性感覚、表在感覚</p> <p>味蕾、嗅神経、順応</p> <p>網膜、視神経</p> <p>中耳、内耳、前庭</p> <p>随意運動、反射弓</p> <p>記憶、認知、言語</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、授業中の確認試験（小テスト）などの総合評価とする。		
教科書・副読本	配布するオリジナルプリントを教科書として使用する。副読本としては、生理学改訂第3版（社団法人 全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する。		
受講上の注意	配布したプリントと副読本を事前に読み、疑問点を抽出した上で講義へ臨むこと。講義中は講義に集中し、私語や睡眠などの不適切な態度を取らぬよう注意すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：平野 剛

科目名・対象学科	生理学Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
神経細胞の機能、神経系の機能、体液・免疫の機能、内分泌系の機能について理解し、主な神経・筋疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療につなげるための基礎知識を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1. 神経細胞の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経細胞の活動を説明できる ・興奮の伝導のメカニズムを説明できる ・興奮の伝達のメカニズムを説明できる <p>2. 神経系の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反射と反射弓について説明できる ・姿勢と歩行の調節について説明できる ・脳の高次機能について説明できる <p>3. 体液、免疫の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・血液の役割を説明できる ・免疫機能を説明できる ・血液凝固のメカニズムを説明できる <p>4. 内分泌系の機能を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内分泌腺について説明できる ・種々のホルモンの種類と作用を説明できる 			<p>全か無かの法則</p> <p>跳躍伝導</p> <p>シナプス</p> <p>反射中枢</p> <p>運動ニューロン</p> <p>言語、学習</p> <p>ホメオスタシス</p> <p>体液性免疫</p> <p>血液凝固因子</p> <p>ホルモン</p> <p>視床下部、甲状腺など</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	生理学改訂第3版（社団法人 全国柔道整復学校協会監修、南江堂）を使用する。		
受講上の注意	生理学改訂第3版を事前に読み、疑問点を抽出した上で講義へ臨むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山本 利春

科目名・対象学科	解剖学Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
柔道整復師に必要な細胞学、組織学、発生学、骨学、筋学、脈管学の知識を獲得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等		学習のキーワード	
<p>1) ヒトの体を構成する細胞の特徴を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 細胞小器官の名称とその働きを説明できる。 細胞周期の各時期、および細胞分裂の各時期の特徴を説明できる。 <p>2) 上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の特徴を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 上皮組織の種類とその特徴を説明できる。 支持組織の種類とその特徴を説明できる。 筋組織の種類とその特徴を説明できる。 神経組織の種類とその特徴を説明できる。 <p>3) ヒトの発生の概略を説明できる。</p> <p>4) ヒトの体を構成する骨の名称、並びにその働きを説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体軸性骨格を構成する骨の名称、並びにその働きを説明できる。 四肢骨を構成する骨の名称、並びにその働きを説明できる。 脳頭蓋、顔面頭蓋を構成する骨の名称、並びにその働きを説明できる。 <p>5) ヒトの体を構成する筋肉の名称、働、起始、停止、神経支配を説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体幹の筋の名称、働、起始、停止、神経支配を説明できる。 四肢の筋の名称、働、起始、停止、神経支配を説明できる。 <p>6) 循環器系を構成する器官の名称、並びにその働きを説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 体循環、肺循環、胎児の循環、主な動脈の名称とその支配領域を説明できる。 主要な静脈の名称、並びにその働きを説明できる。 リンパ器官系を構成する器官の名称と、その働きを説明できる。 		<p>細胞の多様性</p> <p>核、核小体、ミトコンドリア、ゴルジ装</p> <p>G1, S, G2, M, GO期</p> <p>前期、中期、後期、終期</p> <p>扁平上皮、立方上皮、円柱上皮、</p> <p>結合組織、骨組織、軟骨組織、血液</p> <p>横紋筋、平滑筋、随意筋、不随意筋</p> <p>神経細胞、神経膠細胞</p> <p>精子形成、卵子形成、受精、</p> <p>体軸性骨格、頭蓋骨、四肢骨</p> <p>椎骨、肋骨、胸骨、仙骨、尾骨</p> <p>上肢骨、下肢骨</p> <p>前頭骨、頭頂骨、側頭骨、後頭骨、</p> <p>体幹の筋、四肢の筋</p> <p>背部の筋、頸部の筋、胸部の筋、</p> <p>上肢帯の筋、下肢帯の筋、上腕の筋、</p> <p>心臓、大動脈、動脈、静脈、</p> <p>左右心室、左右心房、上行大動脈、大動脈弓、下行大上大静脈、下大静脈、奇静脈、</p> <p>左右リンパ本幹、胸腺、脾臓、</p>	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	教科書：解剖学（全国柔道整復学校協会監修）、副読本：既に持っている解剖学関連の本		
受講上の注意	既に定着している知識と、あやふやな知識を正確に自認して学習すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：大和 宣介

科目名・対象学科	外科学概論		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
外科学全般のうち総論について理解する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1) 損傷、創傷、熱傷について理解する。 (損傷の分類、特殊な損傷、創傷治癒を遅延させる因子、熱傷範囲と深度)</p> <p>2) 炎症と外科感染症について理解する。 (丹毒、毛嚢炎、せつ、よう、膿瘍、蜂窩織炎、ひょう疽、破傷風、ガス壊疽、真菌症)</p> <p>3) 腫瘍について理解する。 (腺癌、扁平上皮癌、未分化癌、リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移)</p> <p>4) ショックについて理解する。 (心原性ショック、血液分布異常性ショック、閉塞性ショック、心タンポナーデ)</p> <p>5) 輸血、輸液について理解する。 (輸血の適応、供血者条件、輸血種類、副作用、輸液の目的、酸塩基平衡の異常)</p> <p>6) 消毒滅菌と手術について理解する。 (消毒と滅菌の違い、主な消毒薬の特徴、主な滅菌法の特徴、フローラ) (皮膚切開法、結紮、外翻縫合、内翻縫合、抜糸、心嚢穿刺、胸腔穿刺)</p> <p>7) 麻酔と移植免疫について理解する。 (麻酔の種類、筋弛緩剤、麻酔前投薬、悪性高熱症、脊椎麻酔、緩和ケア) (自家移植、同系移植、同種移植、異種移植、わが国の移植、拒絶反応)</p> <p>8) 出血と止血について理解する。 (出血血管による分類、出血原因による分類、喀血、吐血、止血法)</p>			<p>バイタルサイン</p> <p>デブ利多マン</p> <p>ブドウ球菌、溶連菌</p> <p>嫌気性菌、ウェルシュ菌</p> <p>癌腫、肉腫</p> <p>非連続性発育(転移)</p> <p>急性循環不全</p> <p>エピネフリン、ショックの5P</p> <p>交差適合試験</p> <p>高カロリー輸液</p> <p>蛋白質の存在</p> <p>ランゲル皮膚割線</p> <p>オピオイド</p> <p>ドナー、レシピエント</p> <p>外出血、内出血</p> <p>一次止血、二次止血</p>
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	外科学概論、改訂第4版(南江堂)		
受講上の注意	教科書、授業ノートをよく復習すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：大和 宣介

科目名・対象学科	整形外科学		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
整形外科学全般のうち総論について理解する。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs)等			学習のキーワード
<p>1) 運動器の基礎知識、整形外科診察法について理解する。 (骨、関、節、筋、靭帯、腱の基礎知識、運動器の科学。姿勢、跛行、関節拘縮)</p> <p>2) 整形外科検査法、整形外科治療法について理解する。 (CT、MRI、関節造影検査、骨密度測定、関節鏡検査、保存療法、観血的治療)</p> <p>3) 骨・関節損傷総論について理解する。 (骨折の定義と分類、骨折の症状、診断、治療、小児骨折、疲労骨折)</p> <p>4) スポーツ整形総論について理解する。 (スポーツ活動中の怪我、スポーツ種目と特徴的な怪我、学校体育での重症外傷)</p> <p>5) 感染性疾患、骨および軟部腫瘍について理解する。 (感染性疾患、骨腫瘍、軟部腫瘍)</p> <p>6) 非感染性軟部・骨関節疾患について理解する。 (変形性関節症、関節リウマチ、痛風、骨粗鬆症)</p> <p>7) 全身性 (先天性骨系統疾患、くる病、巨人症、各種骨端症について)</p> <p>8) 四肢循環障害、神経筋疾患について理解する。 (末梢動脈疾患、静脈瘤、神経麻痺と絞扼性神経障害、全身性神経・筋疾患)</p>			<p>骨芽細胞、破骨細胞</p> <p>マルファン症候群</p> <p>MD法、YAM</p> <p>牽引、皮膚移植、人工関節</p> <p>転位、ソルター・ハリス分類</p> <p>ウェーバーの分類</p> <p>スポーツ外傷</p> <p>スポーツ障害</p> <p>急性化膿性骨髄炎</p> <p>骨肉腫</p> <p>関節リウマチ診断基準</p> <p>血友病性関節症</p> <p>モルキオ病</p> <p>フォン・レックリングハウゼン病</p> <p>フォルクマン拘縮</p> <p>脊髄性小児麻痺</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	整形外科学、改訂第4版(南江堂)		
受講上の注意	教科書、授業ノートをよく復習すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：青木 圭輔

科目名・対象学科	基礎柔整実技Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	実技
一般目標 (GIO)			
上肢の骨折・脱臼の整復・固定技術を習得させる。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1. 鎖骨骨折の整復と固定</p> <p>2. 肩鎖関節脱臼の整復と固定</p> <p>3. 肩関節脱臼の整復と固定</p> <p>4. 肘関節脱臼の整復と固定</p> <p>5. コーレス骨折の整復と固定</p> <p>特徴、発生機序、症状、合併症、整復法、固定法、鑑別が必要なものを説明することができる</p> <p>整復と固定を適切に実施することができる。</p>			<p>坐位整復法、臥位整復法</p> <p>8字帯固定法</p> <p>トッシーの分類</p> <p>ロバート・ジョーンズ絆創膏固定法</p> <p>コッヘル法、ヒポクラテス法</p> <p>肩関節麦穂帯</p> <p>後方脱臼</p> <p>手関節麦穂帯、離開亀甲帯</p> <p>牽引直達法、屈曲整復法</p> <p>手関節麦穂帯、離開亀甲帯</p>
成績評価	実技試験、授業態度、小テスト、出席などの総合評価		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編		
受講上の注意	授業中の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用は厳禁とする。積極的に実技練習に取り組むこと。KC上下の着用すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平

科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅳ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
骨盤から下肢の基本的な解剖学を学び骨折や脱臼に際しての症状や合併症をイメージできるようになる。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等		学習のキーワード	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 骨盤周囲の構成を述べられ骨折や脱臼を学ぶ上での基礎的解剖を理解できる。 2. 骨盤骨折についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 3. 股関節についての構成を述べられ骨折や脱臼を学ぶ上での基礎的解剖を理解できる 4. 大腿骨近位端部骨折についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 5. 大腿骨骨幹部骨折についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 6. 大腿骨遠位端部骨折についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 7. 股関節脱臼についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 8. 股関節周囲の軟部組織損傷についての発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 9. 大腿部の軟部組織損傷についての発生機序、症状、特徴を述べることができる。 10. 下腿骨近位部骨折の発生機序、症状、外観の特徴を述べられる。 		下肢帯 分界線 ローゼルネラトン線 デュベルニー骨折 マルゲーニュー骨折 頸体角 前捻角 骨梁構造 靭帯各種 頸部骨折 関節包 高齢者 骨片転位 ショック 脂肪塞栓 大腿骨長軸成長 伸展型 屈曲型 大転子高位 ダッシュボード損傷 鼠径部痛症候群 弾発股 尻上がり現象 梨状筋症候群 チャーリーホース メイヤーズ・マッキーバー分類 フトソン・ジョーンズ分類	
成績評価	①定期試験・・・4択問題、訂正問題などの複合問題での試験で評価する。		
教科書・副読本	柔道整復理論第6版		
受講上の注意	<ol style="list-style-type: none"> ①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②講義内容に関係のない行為は決してしないこと (スマホ操作や度を越えた居眠りなど) ③出席管理は各自で行う事。(欠席数など) 		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 佐藤 洋平

科目名・対象学科	基礎柔整実技IV		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	実技
一般目標 (GIO)			
上肢の徒手検査法を中心に各疾患の病態を把握し、理論的な解釈で検査を実行できることを目標とする。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等		学習のキーワード	
○頸椎症、頸髄症・・・頸椎の解剖が理解でき、神経の圧迫について高位ごとに症状が説明できる		頸椎の解剖、高位診断	
○胸郭出口症候群・・・胸郭出口の解剖が理解でき、部位ごとの圧迫要因を説明できる		神経根圧迫症状	
○腱板損傷・・・肩関節、腱板構造が理解でき損傷理由や好発部位の説明ができる		神経症状、冷感、絞扼部位 腕神経叢、鎖骨下動脈、斜角筋隙 回旋筋腱板、クリティカルゾーン	
○インピンジ		CAアーチ、第2肩関節、衝突 コッドマンリズム	
○上腕二頭筋長頭腱損傷・・・筋の機能解剖が理解でき損傷理由や症状を説明できる。		関節間溝部、筋腹、 不全断裂、完全断裂	
○ベネット損傷 スラップ損傷・・・損傷部位の特徴や検査法を説明し実施できる。		関節唇損傷、上腕三頭筋長頭 手根管症候群、前、後骨間神経麻痺	
○絞扼性		肘部管症候群、ギヨン管症候群	
○外側上		MCL、短橈側手根伸筋、テニス肘 野球肘	
○椎間板		腱反射、下位運動ニューロン障害 高位診断	
○仙腸関		伸張ストレス、摩擦ストレス 剪断ストレス、圧縮ストレス	
成績評価	①定期試験・・・中間試験＋本試験を総合的に評価するものとする。 ②試験の他に授業態度、意欲、出席を総合的に加味した成績とします。 ③KC忘れは欠席に相当するペナルティがあります。		
教科書・副読本	柔道整復理論第6版 柔道整復実技第2版		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②講義内容に関係のない行為は決してしないこと (スマホ操作や実技室での飲食は絶対に行わないこと)		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小川 航一

科目名・対象学科	基礎柔整実技Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	実技
一般目標 (GIO)			
運動器系の正常構造と機能を理解し、主な運動器疾患の病態を把握させ徒手検査により評価・判断し、これに続く固定処置や後療法に結び付けることができる実践力を身に付けさせる。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs)等			学習のキーワード
<p>運動器系の解剖・機能を理解でき各傷病を徒手検査により評価・判断できることを目標とする。</p> <p><講義内容></p> <p>1) 大腿部軟部組織損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大腿部の解剖と触診、傷病の概要 ・大腿四頭筋及びハムストリングス損傷の検査法 ・大腿部の固定処置 <p>2) 下腿部軟部組織損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下腿部の解剖と触診、傷病の概要 ・下腿三頭筋及びアキレス腱損傷の検査法 ・下腿部の固定処置 <p>3) 足関節軟部組織損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足関節の解剖と触診、傷病の概要 ・足関節捻挫の検査法 ・足関節の固定処置 <p>4) アキレス腱断裂</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラメール副子による固定 			<p>大腿四頭筋損傷の好発部位</p> <p>ハムストリングス損傷の好発部位</p> <p>筋収縮・伸張による疼痛誘発検査</p> <p>麦穂帯 (変法)</p> <p>下腿三頭筋損傷の好発部位</p> <p>アキレス腱断裂の好発部位</p> <p>筋収縮・伸張による疼痛誘発検査</p> <p>トンプソンテスト</p> <p>キネシオテーピング</p> <p>足関節外側靭帯の好発部位</p> <p>前方引き出しテスト・内反ストレステスト</p> <p>厚紙副子及びテーピングによる固定</p> <p>病態及び固定の注意点</p>
成績評価	授業態度、出席、小テスト、本試験により総合評価。		
教科書・副読本	柔道整復学 実技編		
受講上の注意	KC 衣着用、柔整バッグ・教科書持参		

平成31年度 講義計画書

担当講師：田中 ゆり子

科目名・対象学科	病理学概論		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
疾病の成立ちや成因を理解し、全身の臓器や組織に発生する病態を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
① 病理学とは、病因とは何かを説明できる。 ② 病因における内因と外因の違いについて説明できる。 ③ 退行性病変の定義、分類、特徴について説明できる。 ④ 代謝異常について原因物質別に疾患を説明できる。 ⑤ 循環系の構造と機能、血液の循環障害の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑥ リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑦ 進行性病変、病的増殖の定義、分類、特徴について説明できる。 ⑧ 炎症の定義、原因、特徴について説明できる。 ⑨ 炎症の分類、各特徴について説明できる。 ⑩ 免疫の仕組みと異常の機序について説明できる。 ⑪ 自己免疫疾患、アレルギーの定義、分類、機序、特徴について説明できる。 ⑫ 腫瘍の定義、特徴、分類、正常細胞と腫瘍細胞との違いを説明できる。 ⑬ 良性腫瘍と悪性腫瘍との違いを説明できる。 ⑭ 先天性異常で遺伝子異常疾患について説明できる。 ⑮ 先天異常で奇形の原因、種類について説明できる。			病理学的手法、分類、病因 内因、外因、放射線障害 萎縮、変性、壊死、アポトーシス 蛋白質、糖質、脂質代謝障害 充血、うっ血、虚血、出血 浮腫、脱水症、高血圧症 肥大、再生、化生、創傷治癒 炎症細胞、伝達物質 滲出性炎、増殖性炎、特異性炎 免疫応答、免疫不全 自己免疫疾患、アレルギー 腫瘍形態、発育機序 転移ルート、TNM分類 単因子性遺伝、多因子性遺伝、染色体異常 催奇形因子、外表奇形、内臓奇形
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	指定教科書（病理学概論 改定第3版 医歯薬出版）、配布プリント		
受講上の注意	配布プリント、教科書には事前に目を通してから講義に臨むこと。講義中は私語厳禁。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 赤堀 真紀

科目名・対象学科	臨床柔整学V		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
膝関節から足趾の解剖学的構造が理解できる。 膝関節から足趾部の骨折、脱臼、軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症等を理解し、説明できる。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<ol style="list-style-type: none"> 1. 膝関節から足趾までの解剖学的構造が理解でき、説明できる。 2. 膝関節周囲の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる。 3. 発育期の膝関節疾患について理解し、説明できる。 4. 下腿骨の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる。 5. 足関節周囲の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる。 6. 中足骨骨折について理解し、説明できる。 7. 下腿のスポーツ障害について理解し、説明できる。 			前十字靭帯損傷 ブラント病、分裂膝蓋骨 下腿骨幹部骨折 足関節捻挫 ジョーンズ骨折 ランナーズ・ニー シンスプリント
成績評価	定期試験の他、授業態度、出席等を加味して総合的に評価する。		
教科書・副読本	柔道整復理論第6版 (南江堂) プロメテウス解剖学アトラス (医学書院)		
受講上の注意	授業に関係のない行為は慎むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山下 昌一

科目名・対象学科	臨床柔道整復学Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
総論の知識を基にし、各部位の損傷について学習することにより、臨床や競技活動の現場で活動するための知識を身につけるとともに、国家試験合格に向けた基礎知識を修得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1) 手根骨部の骨折</p> <p>舟状骨骨折、三角骨骨折、有鉤骨骨折、豆状骨骨折</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、骨折の発生機序や症状などを理解できる。</p> <p>2) 手関節部の脱臼</p> <p>遠位橈尺関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、月状骨および月状骨周囲脱臼</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、脱臼の発生機序や症状などを理解できる。</p> <p>3) 手関節部の軟部組織損傷</p> <p>TFCC損傷、ド・ケルバン病、手根管症候群、ギヨン管症候群、キーンバック病など</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、軟部組織損傷の発生機序や症状などを理解できる。</p> <p>神経の機能を学習し、絞扼によって起こる症状を理解できる。</p> <p>4) 中手骨部の骨折</p> <p>中手骨頸部骨折、中手骨骨幹部骨折、ベネット骨折など</p> <p>5) 指骨の骨折</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、骨折の発生機序や症状などを理解できる。</p> <p>基節骨骨折、中節骨骨折、末節骨骨折など</p> <p>6) 中手指節関節、指節間関節の脱臼</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、脱臼の発生機序や症状などを理解できる。</p> <p>7) 手部、指部の軟部組織損傷</p> <p>それぞれの骨・関節の構造、軟部組織損傷の発生機序や症状などを理解できる。</p>			<p>偽関節、阻血性壊死</p> <p>転位方向</p> <p>正中神経麻痺</p> <p>三角線維軟骨複合体</p> <p>絞扼性神経障害、狭窄性腱鞘炎</p> <p>猿手、鷲手</p> <p>ボクサー骨折</p> <p>骨片転位</p> <p>マレットフィンガー</p> <p>Z字型変形</p> <p>ステナー損傷</p> <p>ロッキングフィンガー</p> <p>ボタン穴変形、スワンネック変形</p>
成績評価	定期試験、小テスト、授業態度、出席状況などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編 項目毎に資料を配付します。		
受講上の注意	全出席を原則とする、板書事項はノートにしっかり取ること。授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は認めない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 鳥海 剛史

科目名・対象学科	臨床柔整学VI		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	2年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
頭部・体幹・脊柱に関する外傷を理解する。 国家試験問題を学んだ範囲は必ず8割以上得点出来る様にする。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
頭部・顔面の損傷を学ぶ 頭部・顔面部の解剖と機能 頭部・顔面部の骨折 頭部・顔面部の脱臼 頭部・顔面部の軟部組織損傷 頸部の損傷を学ぶ 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折・脱臼 頸椎の軟部組織損傷 頸椎の注意すべき疾患 胸・背部の損傷を学ぶ 胸・背部の解剖と機能 胸部・胸椎の骨折 胸椎の脱臼・軟部組織損傷 腰部の損傷を学ぶ 腰部・仙骨部の解剖と機能 腰椎の骨折・脱臼 腰部の軟部組織損傷			頭蓋骨骨折 顎関節脱臼 頭部・顔面部の打撲 頸椎骨折（上位・下位） むち打ち損傷等 頸椎椎間板ヘルニア 後縦靭帯骨化症 先天性奇形等 肋骨骨折等、棘突起骨折等 胸椎部脱臼骨折、軟部組織損傷 圧迫骨折、チャンス骨折等 筋・筋膜性、靭帯性等
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・小テスト及び定期試験での総合評価とする。		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編（改訂第6版） 南江堂 国家試験問題過去問題集（超分類等） その他適宜、配布物を用意する。		
受講上の注意	積極的に学びの内容を理解し、アウトプット出来る様にする事。 授業範囲外の分野も講義及び演習を行う事があるので、1年生までに学んだ範囲はしっかりと復習する事。 宿題を課す事がある。提出物として扱うので注意する事		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小野 博道

科目名・対象学科	臨床実習		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	実習
一般目標 (GIO) 卒後臨床現場に出た際に必要な知識や、医療人としての行動・姿勢・臨床を学ぶ。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等		学習のキーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・療養費とは？自由診療とは？ 保険を扱う際の心得や、仕組みを知る。 ・施術録（カルテ）の記載方法や管理の仕方を学ぶ。 傷病名・負傷名・症状記載の仕方 ・問診の仕方を学ぶ。 主訴や負傷原因の聞きだし方法やカウンセリングを実践する。 ・視診、触診の仕方を学ぶ。 健側対比や触診の際の圧痛点の見つけ方を実践する。 ・確定評価する方法を学ぶ。 徒手検査、超音波画像装置を用いて評価する事を実践する。 ・患者説明を学ぶ。 患者にわかりやすく説明する事を実践する。 ・施術計画を立てる方法を学ぶ。 治癒に至るまでの施術計画と患者説明。カルテ記載を実践する。 ・現場実習 		療養費支払申請書 傷病名・負傷名・症状記載 カウンセリング 体表解剖触診 インフォームドコンセント 施術計画	
成績評価	課題提出を基に総合的に評価する。		
教科書・副読本	柔道整復学 理論編・実技編		
受講上の注意	全出席は必須！欠席厳禁！頭髪に気を付ける事、アクセサリー禁止、白衣着衣。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小野 博道

科目名・対象学科	柔道整復実技Ⅶ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	通年	実技
一般目標 (GIO)			
認定実技試験の軟部組織損傷に対する徒手検査方法を習得する事。骨折脱臼の整復方法を習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・肩腱板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・上腕二頭筋長頭腱損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・ハムストリングス損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・大腿四頭筋打撲の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・膝関節側副靭帯、十字靭帯、半月板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・下腿三頭筋損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・足関節外側靭帯損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・定型的鎖骨骨折について理解し説明できる。 ・上腕骨外科頸骨折外転型について理解し説明できる。 ・コーレス骨折について理解し説明できる。 ・肩鎖関節脱臼について理解し説明できる。 ・肩関節前方脱臼について理解し説明できる。 ・肘関節後方脱臼について理解し説明できる。 ・肘内障について理解し説明できる。 			徒手検査方法 症状説明 実施手順 診察方法 整復方法とコツ
成績評価	各項目の実技試験、授業に向かう姿勢、出席状況を考慮して採点する。		
教科書・副読本	柔道整復理論編・実技編と配布資料		
受講上の注意	白衣着衣必須		

平成31年度 講義計画書

担当講師：利根 竜兵

科目名・対象学科	柔整実技VI		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	実技
一般目標(GIO)			
認定実技審査内容を踏まえて、患者来院から固定処置まで一連の流れを修得する。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
1) 第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定 2) 手第2指PIP関節背側脱臼 アルミ副子背側固定 3) 下腿骨骨幹部骨折 クラーメル副子固定 4) アキレス腱断裂 クラーメル副子固定 5) 足関節外側靭帯損傷 局所副子固定 6) 膝関節内側側副靭帯損傷 Xサポートテープ固定 7) 足関節外側靭帯損傷 バスケットウィーブテープ固定 8) 足関節外側靭帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定			固定材料 患者への説明 助手への指示 固定材料の使用 固定後の確認
成績評価	実技試験・授業態度（出席状況）などの総合評価とする。		
教科書・副読本	柔道整復学・実技編		
受講上の注意	みだりに騒ぐことなく受講すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：赤池誠司

科目名・対象学科	柔道整復実技Ⅷ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3 年	前 期	実技
一般目標 (GIO)			
認定実技審査を見据え、課題骨折および脱臼の整復操作を理解し、説明しながら実施できるようにする。診察及び整復を中心に固定を含めた各課題を理解し説明できるようにする。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs)等			学習のキーワード
定型的鎖骨骨折（診察・整復・固定）について理解し説明できる。 上腕骨外科頸外転型骨折（診察・整復・固定）について理解し説明できる。 上腕骨骨幹部三角筋附着部より遠位骨折の固定について理解し説明できる。 コーレス骨折（診察・整復・固定）について理解し説明できる。 第5中手骨頸部骨折の固定について理解し説明できる。 肩鎖関節脱臼（診察・整復・固定）について理解し説明できる。 肩関節前方脱臼（烏口下脱臼）（診察・整復・固定）について理解し説明できる。 肘関節後方脱臼について理解し説明できる。 肘内障の診察・整復について理解し説明できる。 示指PIP関節背側脱臼の固定について理解し説明できる。			想定する病態の特徴と説明 実施手順の確認 診察及び整復・固定のコツ
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）などを学校の定める基準によりに評価する。定期試験形式は口頭試験形式で実施することがある。		
教科書・副読本	柔道整復学 実技編・理論編、認定実技審査要領「平成30年度改訂版」		
受講上の注意	原則として全出席を原則とする。各実技課題が必要想定されるレベルになるよう、各自工夫をして積極的にアウトプットをすること。前記の認定実技審査要領を各自で確認しておくこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：赤池 誠司

科目名・対象学科	柔道整復理論V		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標(GIO)			
1年生・2年生時に学習した知識を演習形式で再確認することで、柔道整復理論における国家試験を想定した課題に対する対応力を身につけるようにする。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
柔道整復師国家試験の概要について理解できる。 必修問題の概要について理解できる。 勉強方法(試験対策)のコツについて理解できる。 勉強計画について 総論分野の学習方法について理解し説明できる。 各論分野の学習方法について理解し説明できる。 臨床科目分野の学習方法について理解し説明できる。 問題演習への対応・対策について理解し説明できる。			国家試験出題基準 学習方法のコツ まとめノート(弱点ノート) スケジュール管理 資料の作成および整理 出題ポイントの整理 学習のインプットとアウトプット 柔道整復理論(総論・各論)
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況)、授業中の確認課題(小テスト課題)などを学校の定める基準により総合評価とする。		
教科書・副読本	国家試験に出題される科目の教科書、演習問題プリント		
受講上の注意	毎回の課題を各自で分析してその解決方法を考えるようにする。自ら学習時間を作り、勉強方法を確立するように工夫努力・実践すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：赤池誠司

科目名・対象学科	総合演習Ⅳ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
これまでに学習した柔道整復理論および実技の知識を演習形式で再確認することで、国家試験を想定した課題に対する対応力を身につけるようにする。またこの知識を柔道実技に応用する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
肩腱板損傷（診察・検査）について理解し説明できる。			想定する病態の特徴と説明
上腕二頭筋長頭腱損傷（診察・検査）について理解し説明できる。			実施手順の確認
大腿部損傷（診察・検査）について理解し説明できる。 →打撲、肉ばなれ、大腿四頭筋、ハムストリングス			診察及び整復・固定のコツ
下腿三頭筋肉ばなれ（診察・検査）について理解し説明できる。			
アキレス腱断裂（診察・検査・固定）について理解し説明できる。			
足関節外側靭帯損傷（診察・検査・固定）について理解し説明できる。			
下腿骨骨幹部骨折（診察・固定）について理解し説明できる。			
柔道実技			
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、授業中の確認課題（小テスト課題）などを学校の定める基準により総合評価とする。		
教科書・副読本	柔道整復学 実技編・理論編、認定実技審査要領「平成30年度改訂版」		
受講上の注意	毎回の課題を各自で分析してその解決方法を考えるようにする。自ら学習時間を作り、勉強方法を確立するように工夫努力・実践すること。前記の認定実技審査要領を各自で確認しておくこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小原 健

科目名・対象学科	一般臨床医学Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標(GIO)			
疾患の概要、ガイドラインを知る			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等		学習のキーワード	
各種疾患の概要、診療ガイドラインを知る			
1. 呼吸器疾患		COPD、肺炎、結核、薬剤耐性	
2. 循環器疾患		高血圧	
3. 消化管疾患		ヘリコバクター・ピロリ	
4. 肝胆膵疾患		肝硬変、ウイルス肝炎	
5. 代謝疾患・生活習慣病		脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症、高尿酸血症	
6. 内分泌疾患		各種内分泌疾患	
7. 血液・造血器疾患		白血病、HIV/AIDS、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、	
8. 腎・尿路疾患		AKI、CKD	
9. 神経疾患			
10. 感染症		風疹、梅毒、ヘルペスウイルス、血液媒介感染症、性行為感染症、	
11. 自己免疫疾患		各種疾患	
12. 悪性腫瘍		各種悪性腫瘍	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	一般臨床医学 改訂第3版 全国柔道整復学校協会 編 医歯薬出版株式会社		
受講上の注意	全出席することを原則とし、講義内容よく聴講してノートをしっかりとること。また、疑問点を放置せず、調べたり質問したりして必ず自己解決すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：渡辺 義隆

科目名・対象学科	運動学・総合演習Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
運動学の基本的事項を学び、さらに1・2年次で履修した解剖学・生理学の運動器に関する知識を整理し、応用できるようにすることを目標とする。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs)等			学習のキーワード
<p>1) 運動学とは何か、また身体運動と力学との関連性を学ぶ。</p> <p>運動面と軸、運動学に関連する基本的な物理用語、運動の法則を理解できたか。</p> <p>2) 運動に関わる筋、神経、感覚器について解剖学・生理学の知識を整理し、運動学に応用できる力をつける。</p> <p>骨、関節、骨格筋の構造と機能について、その細部まで理解できたか。</p> <p>運動器の運動と感覚について、その詳細まで理解できたか。</p> <p>3) 四肢および体幹の運動について、関連する骨格、関節、筋の働きを復習し、特にその作用について理解を深める。</p> <p>四肢と体幹の骨格、関節、筋について、その構造と機能の理解を深めることができたか。</p> <p>4) ヒトの運動の基本となる姿勢および歩行の基本的知識を学ぶ。</p> <p>人体の重心と立位姿勢の基本とその制御について理解できたか。</p> <p>5) ヒトの乳幼児期を中心とする運動発達と運動学習の機能について学ぶ。</p> <p>ヒトの運動発達と学習の概要について理解できたか。</p>			<p>基本姿勢と運動面・軸</p> <p>運動力学と運動の法則</p> <p>骨・関節・神経細胞・脳の構造と機能、反射の分類</p> <p>重心、立位姿勢、機能肢位</p> <p>歩行周期、歩行の運動学的・運動力学的分析、異常歩行</p> <p>乳幼児期の運動発達</p> <p>学習</p>
成績評価	定期試験に加え、出席状況などを勘案した総合評価とする。		
教科書・副読本	指定教科書「運動学（第3版 医歯薬出版株式会社）」他に資料（プリント）を配布することがある。		
受講上の注意	特に前半は解剖学や生理学で履修した内容の復習事項が多く、これらを復習しておいてほしい。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：青木 圭輔

科目名・対象学科	柔整実技VI		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	実技
一般目標 (GIO)			
柔道整復理論を理解し、認定実技審査に出題される固定を習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
鎖骨骨折の固定			8字帯固定
上腕骨骨幹部骨折の固定			ミッドドルフ三角副子
コーレス骨折の固定			クラーメル副子
肋骨骨折の固定			さらし、厚紙副子
肩鎖関節上方脱臼の固定			ロバートジョーンズ 絆創膏固定
肩関節前方脱臼の固定			麦穂帯
肘関節後方脱臼の固定			離開亀甲帯
固定肢位、固定範囲、固定期間、固定の注意点を説明することができる。			
固定を適切に実施することができる。			
成績評価	実技試験、授業態度、出席などの総合評価		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、認定実技審査要項「平成30年度改訂版」		
受講上の注意	授業中の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用は厳禁とする。 積極的に実技練習に取り組むこと。KC上下の着用すること。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：青木 圭輔

科目名・対象学科	総合演習Ⅱ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標 (GIO) 解剖学について国家試験に対応できる知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等		学習のキーワード	
解剖学：総論 細胞の形態と内部構造について理解する。 組織の分類と特性について理解する 人体の発生、各組織、器官の発生について理解する 解剖学：循環器系 心臓の構造について理解する。 動脈の構造について理解する。 静脈の構造について理解する。 リンパ系の構造について理解する。 解剖学：内臓系 消化器の構造について理解する。 呼吸器の構造について理解する。 泌尿器の構造について理解する。 生殖器の構造について理解する。		ミトコンドリア、細胞周期、DNA 上皮、支持、筋組織 内胚葉、外胚葉、中胚葉 僧帽弁、刺激伝導系 冠状動脈、腹大動脈 奇静脈、硬膜静脈洞 咽頭、食道、胃、小腸、大腸 鼻腔、服鼻腔、喉頭、気管、肺 腎臓、尿管、膀胱、尿道 男性生殖器、女性生殖器	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）、小テストなどを総合評価		
教科書・副読本	教科書、プリント、国家試験出題基準		
受講上の注意	予習、復習をして授業に参加すること。 授業中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：岡村 安優

科目名・対象学科	リハビリテーション医学		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
海外における物理医学とリハビリテーションの歴史的背景から、本邦におけるリハビリテーション医学ならびに医学的リハビリテーションの位置づけを理解する。またリハビリテーション医学に基づく一般的な考え方、アセスメントおよびそのアプローチや治療を理解し、実際の診療に生かすことができるようになる。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等			学習のキーワード
1) リハビリテーション医学の概念と歴史について理解する。			物理医学・リハビリテーション
2) リハビリテーション医学の関連職種とその内容について理解する。			PT・OT・ST・PO
3) おもな運動器疾患のリハビリテーションについて理解する。 → (腰痛、肩こり、橈骨遠位端骨折)			筋・神経・疼痛 評価・診断・臨床推論
4) フィジカルアセスメントについて理解する。			姿勢分析・歩行分析・膝OA
5) 老年期のリハビリテーションについて理解する。			骨折・手関節
6) 代謝疾患のリハビリテーションについて理解し説明できる。			糖尿病・エネルギー代謝
7) 心疾患のリハビリテーションについて理解し説明できる。			浮腫・心不全・高血圧
8) 呼吸器疾患のリハビリテーションについて理解し説明できる。			COPD・酸塩基平衡
9) 関節リウマチのリハビリテーションについて理解し説明できる。			
10) 末梢神経損傷のリハビリテーションについて理解し説明できる。			TOS・GBS
11) 小児疾患のリハビリテーションについて理解し説明できる。			遺伝・DMD
12) 脊髄損傷のリハビリテーションについて理解し説明できる。			脊髄・上行性伝導路
13) 脳卒中のリハビリテーションについて理解し説明できる。①			片麻痺・高次脳機能障害
14) 脳卒中のリハビリテーションについて理解し説明できる。②			画像診断・介護保険
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	指定教科書「リハビリテーション医学」南江堂		
受講上の注意	授業の進行が早いので、しっかりと予習・復習を行うこと 教科書は各自でしっかりと読み込むこと		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山下 昌一

科目名・対象学科	応用柔道整復演習Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
1、2年次に履修した生理学の復習を演習形式で行うことで、国家試験に合格するための知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等		学習のキーワード	
1) 血液の生理学 血液の組成、働きについて理解できる。 2) 体液の生理学 体液の区分・組成・恒常性について理解できる。 3) 循環の生理学 心臓および血管の働きを理解できる。 4) 呼吸の生理学 換気の仕組みや酸素の運搬について理解できる。 5) 栄養と代謝 同化作用、異化作用について理解できる。 6) 神経の基本的機能 神経細胞における興奮発生の仕組み、興奮の伝わりかたが理解できる。 7) 神経系の機能 内臓機能および姿勢と運動の調節について理解できる。 8) 感覚の生理学 刺激の受容について理解できる。		血液の組成、免疫、血液型 血液の凝固 体液量、浸透圧 酸塩基平衡 刺激伝導系、心電図、心周期 各血管の働き、血圧 胸腔内圧、換気量と残気量 O ₂ 、CO ₂ の運搬 解糖系、TCA回路 膜電位、興奮の伝導・伝達 神経線維の分類 反射、自律神経 筋紡錘 自由神経終末、コルチ器 平衡斑、視細胞	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	南江堂 生理学 改訂第3版 各項目毎に資料を配付します。		
受講上の注意	全出席することを原則とし、板書事項はノートにしっかり取ること。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は認めない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師： 赤堀 真紀

科目名・対象学科	臨床柔整VI		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	前期	座学
一般目標 (GIO)			
解剖学の運動器、脈管系、神経系、体表解剖について理解でき、説明できる。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs)等			学習のキーワード
<p>1. 運動器の構造について理解でき、説明できる。</p> <p>1) 骨の発生と成長、連結、部位の名称が述べられる。</p> <p>2) 筋の形態、起始、停止、作用について述べられる。</p> <p>2. 脈管系の構造について理解でき、説明できる。</p> <p>1) 心臓の構造と機能が述べられる。</p> <p>2) 動脈、静脈の構造の違いが述べられる。</p> <p>3) 主要な動脈の名称、枝が述べられる。</p> <p>4) 主要な静脈の名称、流入が述べられる。</p> <p>5) リンパ系について述べられる。</p> <p>3. 神経系の構造について理解でき、説明できる。</p> <p>1) 神経系の区分が述べられる。</p> <p>2) 中枢神経各部位の構造が述べられる。</p> <p>3) 伝導路について述べられる。</p> <p>4) 脳神経の名称、機能を述べられる。</p> <p>5) 脊髄神経の枝が述べられる。</p> <p>6) 自律神経系について述べられる。</p> <p>4. 体表解剖について理解でき、説明できる。</p>			<p>関節</p> <p>膜内骨化、横径成長</p> <p>骨格筋、筋膜</p> <p>刺激伝導系、弁</p> <p>弾性線維</p> <p>大脳動脈輪、腹大動脈</p> <p>硬膜静脈洞、門脈</p> <p>リンパ本幹、脾臓</p> <p>中枢神経、末梢神経</p> <p>脳、脊髄</p> <p>錐体路</p> <p>腕神経叢</p> <p>交感神経、副交感神経</p> <p>生体計測、拍動の触れる動脈</p>
成績評価	定期試験の他、授業態度、出席等を加味して総合的に評価する。		
教科書・副読本	解剖学 (南江堂) 運動学 (南江堂)		
受講上の注意	授業に関係のない行為は慎むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山下 昌一

科目名・対象学科	総合演習 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3 年	前 期	座 学
一般目標 (GIO)			
1、2年次に履修した生理学の復習を演習形式で行うことで、国家試験に合格するための知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等		学習のキーワード	
<p>1) 生理学の基礎 細胞内小器官の働きや、物質移動などの仕組みを理解できる。</p> <p>2) 骨の生理学 カルシウム代謝や、それに関わるホルモンの働きなどを理解できる。</p> <p>3) 筋肉の機能 筋の種類と、それぞれの特徴を理解できる。</p> <p>4) 内分泌系の機能 内分泌系（総論）の概要を理解できる。</p> <p>5) 消化と吸収 糖質、蛋白質、脂質における消化と吸収の全体像を理解できる。</p> <p>6) 尿の生成と排泄 腎臓の機能について理解できる。</p> <p>7) 生 殖 精子の形成、卵巣周期と月経周期に関わるホルモンの作用を理解できる。</p> <p>8) 体温とその調節 産熱および放熱の機序を理解できる。</p>		<p>細胞内小器官 能動輸送、受動輸送 カルシウム調節ホルモン 骨の再吸収と再形成 骨格筋、心筋、平滑筋 筋収縮の仕組み 内分泌器官の種類 ホルモンの組成、作用機序 糖質、蛋白質、脂質の消化と吸収 ネフロン、クリアランス 糸球体濾過、再吸収と分泌 テストステロン プロゲステロン、エストロゲン 熱の産生と放散 エクリン腺</p>	
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	南江堂 生理学 改訂第3版 各項目毎に資料を配付します。		
受講上の注意	全出席することを原則とし、板書事項はノートにしっかり取ること。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は認めない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小野 博道

科目名・対象学科	柔道整復実技Ⅶ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	通年	実技
一般目標 (GIO)			
認定実技試験の軟部組織損傷に対する徒手検査方法を習得する事。骨折脱臼の整復方法を習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等		学習のキーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・肩腱板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・上腕二頭筋長頭腱損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・ハムストリングス損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・大腿四頭筋打撲の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・膝関節側副靭帯、十字靭帯、半月板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・下腿三頭筋損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・足関節外側靭帯損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・定型的鎖骨骨折について理解し説明できる。 ・上腕骨外科頸骨折外転型について理解し説明できる。 ・コーレス骨折について理解し説明できる。 ・肩鎖関節脱臼について理解し説明できる。 ・肩関節前方脱臼について理解し説明できる。 ・肘関節後方脱臼について理解し説明できる。 ・肘内障について理解し説明できる。 		<ul style="list-style-type: none"> 徒手検査方法 症状説明 実施手順 診察方法 整復方法とコツ 	
成績評価	各項目の実技試験、授業に向かう姿勢、出席状況を考慮して採点する。		
教科書・副読本	柔道整復理論編・実技編と配布資料		
受講上の注意	白衣着衣必須		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山下 昌一

科目名・対象学科	総合演習 I		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3 年	後 期	座 学
一般目標 (GIO)			
1、2年次に履修した解剖学の復習を演習形式で行うことで、国家試験に合格するための知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1) 概説 細胞の構造や働きを理解できる。</p> <p>2) 神経系 神経系の構造や働きを理解できる。</p> <p>3) 脈管系 脈管系の構造や働きを理解できる。</p> <p>4) 消化器系 消化器系の構造や働きを理解できる。</p> <p>5) 呼吸器系 呼吸器系の構造や働きを理解できる。</p> <p>6) 泌尿器系 泌尿器系の構造や働きを理解できる。</p> <p>7) 生殖器系 生殖器系の構造や働きを理解できる。</p> <p>8) 感覚器系 感覚器系の構造や働きを理解できる。</p>			<p>細胞内小器官</p> <p>中枢神経と末梢神経</p> <p>心臓の構造 動脈とその枝</p> <p>消化管と消化腺</p> <p>気管、肺</p> <p>腎臓、尿管、膀胱、尿道</p> <p>精巣と卵巣</p> <p>外皮、視覚器、聴覚器 平衡器</p>
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況）などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	医歯薬出版 一般臨床医学 改訂第3版 最初の授業でまとめ資料を配付します。		
受講上の注意	全出席することを原則とし、板書事項はノートにしっかり取ること。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は認めない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：森 倫範

科目名・対象学科	総合演習Ⅱ		柔道整復学科
学年・実施学期・講義形式	3年	後期	座学
一般目標 (GIO)			
これまでに学んだ柔道整復学の中で、下肢についての理解を深める。 講義を通じて、実際の臨床に役立つ知識と判断力を養う。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
骨盤骨骨折の詳細について理解し、説明できる。			骨盤骨骨折
大腿骨頸部骨折の詳細について理解し、説明できる。			大腿骨頸部骨折
股関節脱臼の詳細について理解し、説明できる。			股関節脱臼 (先天性を含む)
股関節軟部組織損傷の詳細について理解し、説明できる。			股関節疾患
大腿骨中央骨折の詳細について理解し、説明できる。			大腿骨骨幹部骨折
大腿骨遠位端部骨折、大腿部軟部組織損傷の詳細について理解し、説明できる。			大腿骨頸部骨折等
膝蓋骨骨折および脱臼の詳細について理解し、説明できる。			膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼
膝関節内骨および軟部組織損傷の詳細について理解し、説明できる。			離断性骨軟骨炎・膝内障 等
下腿骨近位部・骨幹部骨折の詳細について理解し、説明できる。			下腿骨近位部・骨幹部骨折
下腿骨遠位部骨折の詳細について理解し、説明できる。			下腿骨遠位部骨折
下腿部の軟部組織損傷の詳細について理解し、説明できる。			アキレス腱断裂 等
足関節部の軟部組織損傷の詳細について理解し、説明できる。			足関節捻挫・骨端症
足部骨折・脱臼の詳細について理解し、説明できる。①			足根骨・中足骨の損傷
足部骨折の詳細について理解し、説明できる。②			足趾骨の損傷
まとめ			上記内容すべて
成績評価	①定期試験・・・4択問題での試験 ②試験の他に授業態度、意欲、出席を総合的に加味した成績とします。		
教科書・副読本	柔道整復学理論編 (第6版)、柔道整復学実技編 (第2版)、整形外科学		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②講義内容に関係のない行為は決してしないこと。(スマホ操作や度を越えた居眠りなど) ③出席管理は各自で行う事。(欠席数など)		

平成31年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平

科目名・対象学科	総合領域②		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	後期	講義
一般目標(GIO)			
柔整理論の必修項目の範囲を密度濃く復習し国家試験において8割以上の正答が出来ることを目標とする。			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
1) 鎖骨骨折の診察および整復、合併症等を説明できる。 2) 上腕骨外科頸骨折の診察および整復、合併症等を説明できる。 3) コーレス骨折の診察および整復、合併症等を説明できる。 4) 肩鎖関節上方脱臼の診察および整復、合併症等を説明できる。 5) 肘関節後方脱臼の診察および整復、合併症等を説明できる。 6) 肩関節烏口下脱臼の診察および整復、合併症等を説明できる。 7) 肘内障の診察および整復、合併症等を説明できる。 8) 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察、合併症等を説明できる。 9) 大腿部、下腿部の打撲、肉離れの診察、合併症等を説明できる。 10) 膝関節側副靭帯、十字靭帯、半月板損傷の診察、合併症等を説明できる。 11) ボクサー骨折の診察、合併症等を説明できる。 11) PIP関節脱臼の診察、固定等を説明できる。			開放性骨折 上方凸変形脱臼との鑑別 外転型骨折 腋窩動脈、神経損傷 RSD 変形の種類 不安定型 コーレス骨折 ピアノキー症状 トッシー分類 変形治癒 弾発肢位 ヒューター三角靭帯損傷 モーレンハイム窩 反復性脱臼の原因 好発年齢 橈骨頭 外観の特徴 クリティカルゾーン 結節間溝 筋力低下 チャーリーホース テニスレッグ 二関節筋 緊張肢位 OKC CKC サグサイン等 靭帯の種類 距骨傾斜角 前方引き出し検査 掌側板損傷
成績評価	定期試験・・・選択問題での出題とします。 出席・・・欠席数は各自で管理すること。		
教科書・副読本	柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版 ※必要な教科書は随時周知しますのでそれに従ってください。		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②配布したプリントはよく考えて使用すること。(テスト前の再配布は致しません) ③講義に関係のない行為は決してしない。(スマホ操作や度を超えた居眠りなどは退室して頂き		

平成31年度 講義計画書

担当講師：赤堀 真紀

科目名・対象学科	応用柔道整復演習Ⅲ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	後期	講義
一般目標(GIO)			
内臓系の解剖について理解でき、説明ができる。			
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等		学習のキーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・消化器の構造と働きがわかる ・呼吸器の構造と働きがわかる ・泌尿器の構造と働きがわかる ・生殖器の構造と働きがわかる 		唾液腺、大網、肝小葉、グリソン鞘 副鼻腔、喉頭軟骨、縦隔 腹膜後器官、腎筋膜、腎小体 精細管、月経周期、卵胞、胎盤	
成績評価	定期試験他、小テスト、授業態度（出席状況）などで総合的に評価する。		
教科書・副読本	解剖学改訂第2版（南江堂）		
受講上の注意	授業に関係のない行為は慎むこと。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平

科目名・対象学科	総合演習Ⅳ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	後期	講義
一般目標 (GIO)			
運動学では歩行や重心、テコなど基本を押さえ演習形式で復習を行っていく。 病理学では炎症や進行性・退行性病変、腫瘍など頻出項目を押さえ演習形式で行い両科目とも国家試験に対応できるレベルまで習得することを目標とする。			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等		学習のキーワード	
1) 姿勢について理解し説明できる。 2) 歩行について理解し説明できる。 3) 運動発達について理解し説明できる。 4) 運動学習について理解し説明できる。 5) 運動感覚と調節を理解し説明できる。 6) 筋収縮と骨代謝を理解し説明できる。 7) 四肢と体幹の運動を理解し説明できる。 8) 炎症について理解し説明できる。 9) 腫瘍について理解できる。 10) 代謝障害、退行性病変について説明できる。 11) 循環障害について理解し説明できる。 12) 進行性病変について理解し説明できる。 13) 病因や先天異常について理解し説明できる。 14) 病理学の総論について理解する。		重心 安定性 抗重力筋 歩行周期 効率的な歩行 ケイデンス 神経組織の成熟 全身運動 原始反射 学習曲線 動機づけ 記憶 技能と能力 α - γ 連関 筋紡錘 腱紡錘 運動感覚 終板電位 Ach トライアッド カルシウム 鎖骨 胸郭 膝関節 足関節 手関節 アラキドン酸カスケード 炎症細胞 TNM分類 転移の種類 アポトーシス 萎縮 変性 代謝異常 老化 壊死 高血圧 脱水 血栓 浮腫 出血 充血 肥大 再生 化生 創傷治癒 移植 内因 外因 奇形 染色体異常 疾病の一般 病理解剖 観察	
成績評価	定期試験・・・選択問題にて行います。 出席・・・欠席数は自己管理すること。 ※試験結果、出席、授業態度など総合的に判断します。		
教科書・副読本	運動学第3版 病理学概論第3版 ※必要な教科書は随時周知しますのでそれに従ってください。		
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②配布したプリントはよく考えて使用すること。(テスト前の再配布は致しません) ③講義に関係のない行為は決してしない。(スマホ操作や度を越えた居眠りなどは退室して頂		

平成31年度 講義計画書

担当講師：山下 昌一

科目名・対象学科	総合領域①		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3 年	後 期	座 学
一般目標 (GIO) 解剖学および生理学の問題演習を繰り返して行うことで、国家試験に合格するための知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等		学習のキーワード	
1) 内分泌系の解剖生理学 内分泌器官の構造や働きを理解できる。 2) 神経系の解剖生理学 神経系の構造や働きを理解できる。 3) 感覚器系の解剖生理学 感覚器系の構造や働きを理解できる。 4) 運動器系の解剖生理学 運動器系の構造や働きを理解できる。		内分泌器官 ホルモン 中枢神経と末梢神経 活動電位 外皮、視覚器、聴覚器 平衡器 骨、筋の名称 カルシウム代謝 静止張力と活動張力	
成績評価	総合試験、定期試験で総合的に評価する。		
教科書・副読本	南江堂 生理学 改訂第3版 医歯薬出版 解剖学 改訂第2版 前期の授業で配布した解剖学、生理学の資料		
受講上の注意	全出席することを原則とし、板書事項はノートにしっかり取ること。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は認めない。		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小野 博道

科目名・対象学科	柔道整復実技Ⅶ		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	通年	実技
一般目標 (GIO)			
認定実技試験の軟部組織損傷に対する徒手検査方法を習得する事。骨折脱臼の整復方法を習得する。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s) 等			学習のキーワード
<ul style="list-style-type: none"> ・肩腱板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・上腕二頭筋長頭腱損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・ハムストリングス損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・大腿四頭筋打撲の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・膝関節側副靭帯、十字靭帯、半月板損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・下腿三頭筋損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・足関節外側靭帯損傷の理論と徒手検査を行い説明できる。 ・定型的鎖骨骨折について理解し説明できる。 ・上腕骨外科頸骨折外転型について理解し説明できる。 ・コーレス骨折について理解し説明できる。 ・肩鎖関節脱臼について理解し説明できる。 ・肩関節前方脱臼について理解し説明できる。 ・肘関節後方脱臼について理解し説明できる。 ・肘内障について理解し説明できる。 			徒手検査方法 症状説明 実施手順 診察方法 整復方法とコツ
成績評価	各項目の実技試験、授業に向かう姿勢、出席状況を考慮して採点する。		
教科書・副読本	柔道整復理論編・実技編と配布資料		
受講上の注意	白衣着衣必須		

平成31年度 講義計画書

担当講師：小粥博樹

科目名・対象学科	整形外科学		柔道整復師科
学年・実施学期・講義形式	3年	後期	座学
一般目標 (GIO)			
臨床整形外科の現状の理解として一連の診察（問診、検査、診断、処置）を知ることが前提に、その代表的疾患について各病態を理解した適切な対応をするための知識を身につける。			
授業計画・内容・到達目標 (SB0s)・学習のキーワード			
講義内容・具体的到達目標 (SB0s)等			学習のキーワード
<p>1) 整形外科学とは何か。その意義と歴史</p> <p>2) 整形外科的検査法や治療法について理解する。</p> <p>→一般的な診察の流れについて、手術療法の適応について</p> <p>(各種画像検査、単純X線検査 (CR)、CT、MRI、超音波、造影検査 (関節・血管)、関節鏡検査、核医学検査、筋電図検査、骨密度測定)</p> <p>その他の検査法 (血液検査 (血算・生化)、関節液、脳脊髄液、生検)</p> <p>3) 整形外科治療を理解する。(保存療法と手術療法：内固定、THA、TKA、創外固定)</p> <p>4) スポーツ整形外科を理解する。</p> <p>5) 感染性疾患の病態、検査と治療法を理解する。</p> <p>6) 骨腫瘍・軟部腫瘍を理解する。(良性骨腫瘍、悪性骨腫瘍、軟部腫瘍)</p> <p>7) 非感染性軟部・骨関節疾患を理解する。</p> <p>→変形性関節症、関節リウマチ、痛風、離断性骨軟骨炎、偽痛風、石灰沈着性滑液包炎</p> <p>→強直性脊椎炎、血清反応陰性脊椎関節症、掌蹠膿疱症性骨関節炎、神経病性関節症</p> <p>8) 骨粗鬆症の病態、検査と治療法を理解する。</p> <p>9) 四肢の循環障害について理解する。</p> <p>10) 神経・筋疾患について理解する。</p> <p>11) 脊髄・脊椎疾患について理解する。(脊髄腫瘍・脊髄損傷)</p>			<p>問診、検査、診断、処置</p> <p>整形外科的徒手検査</p> <p>薬物療法、保存療法、</p> <p>運動器の手術療法、</p> <p>化膿性関節炎、化膿性骨髄炎</p> <p>骨肉腫、軟骨肉腫、Ewing肉腫</p> <p>骨髄腫、癌の骨転移</p> <p>良性骨腫瘍</p> <p>骨端症</p> <p>ASO、DVT、Raynaud病、静脈瘤</p> <p>絞扼性神経障害、ポリオ、</p> <p>脳性麻痺、ALS、分娩麻痺</p>
成績評価	定期試験、授業態度 (出席状況含む)、授業中の確認試験 (小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。		
教科書・副読本	整形外科学、改訂第4版(南江堂)		
受講上の注意	教科書、授業ノートをよく復習すること。		